

2021年1月16日

年間第2主日

菊地功大司教 メッセージ

「来なさい。そうすれば分かる」

この一言を信じて、ヨハネの二人の弟子はイエスについて行きました。その晩、イエスとどのようなやりとりがあったのかは記されていませんが、少なくとも翌日、自分の兄弟の人生を変えるような決断を促すほどの、大きな出会いとなりました。

わたしたちは、どちらかといえば、論理的に納得したいと思っています。子どもの頃には口論になると、負けたくない一心で『証拠を見せろ』と言ってみたり、大人になった今はSNSが発達して誰でも情報を発信する洪水の中で、『エビデンスを示せ』と迫ってみたりします。いくつになっても、信じるためには納得できるだけの証拠がほしいのです。わたしたちは本性的に疑り深いのだらうと思います。

サムエル記は、少年サムエルがたびたび神からの呼びかけを受けた話を記し、それに対して祭司エリが、「どうぞお話してください。しもべは聞いております」と答えるように勧めた話を記します。祭司エリは、決して声の主に、「お前は誰なのか、証拠を見せろ」と迫ることではなく、耳を傾けその語る言葉に心を開くようにと諭します。その時はじめて神の声が心の耳に到達します。

イエスについて行ったヨハネの二人の弟子も、納得できる証拠を求めるのではなく、イエスの存在と語る言葉を心に感じたことで、イエスがメシアであることを確信しました。福音には「どこにイエスが泊まっておられるかを見た」と記され、また「イエスのもとに泊まった」と記されていますが、イエスが何者かを知るために議論をしたとは記されていません。それは「どうぞお話してください。しもべは聞いております」と言う態度に通じるものです。

わたしたちは言葉があふれかえっている世界に生きています。インターネットの時代で

すから、そのように取り囲まれざるを得ません。その中で、静かに心を開き、神の声に耳を傾ける時をもつことは、大切なひとときであると思います。

教会は、1月18日から25日までを、キリスト教一致祈禱週間と定めています。この日付となったのは、こういった一致祈禱が最初に提起された1908年に、当時ペトロの使徒座が祝われていた1月18日からパウロの回心の25日までという、キリスト教の発祥に深く関わる聖ペトロと聖パウロという二人の偉大な聖人を象徴として、キリスト者の一致を祈り求めるためであったと伝えられています。なお現在の典礼暦では、ペトロの使徒座は2月25日に移動しています。

毎年、一致祈禱週間のためのテーマが教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会(WCC)によって選ばれ、手引きの小冊子が発行されています。今年のテーマはヨハネ福音から「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなた方は豊かに実を結ぶ」とされています。

今年の小冊子はテーマを解説し、「霊性と連帯は分かちがたくつながっています。キリストにつながっていれば、不正義と抑圧の構造に対抗するための、人類家族の兄弟姉妹であることを真に自覚するための、さらには、すべての被造物と敬意を持って交わるという新しい生き方を生み出すための、力と知恵を受けることができます」と記しています。

わたしたちは霊的な祈りにおける連帯の内に、互いに心を静かにし、神の声に耳を傾けたいと思います。「どうぞお話してください。しもべは聞いております」という姿勢で、互いの連帯を深め、御父からの力と知恵をいただき、信仰において強められましょう。